

豊能町くはたちのつどい

20歳の晴れの門出を祝い、1月8日、ユーベルホールにおいて令和6年「はたちのつどい」を開催しました。

当日は、スーツや色鮮やかな振袖に身を包んだ111人の出席があり、未来への第一歩を踏み出しました。

会場では久しぶりに会う旧友とともに写真を撮ったり、思い出話に花を咲かせたりする姿があちらこちらで見られました。



「二十歳のじよば」

降矢 莞治さん



今日、私たちは人生の大きな節目である成人式を迎えることができました。20歳を迎えた私たちの門出に際してこのような盛大な式典を催していただきありがとうございます。

私が生まれて20年が経ち選挙やお酒など少しずつ大人への一歩を踏み入れているところです。しかし、人生100年時代と言われる現代において、まだまだ未熟な存在であり、日々成長をしていかなければならないと感じています。

話は変わり私事になりますが、私は高校時代からアメリカンフットボールをしています。そこで感じた2つのことを今日は話そうと思います。1つ目は、自分で決めた目標に対して向き合う中で人として成長できたことです。幼小中から高校受験のとき、真面目にやるのが恥ずかしく思い、何事においても適当にそれなりにやっていた気がします。自分と向き合うこともせず、1番楽ができて、なんとなく楽しかったら良いと思って生活していました。何がしたいのかもなく、浮ついた気持ちでした。

高校大学生になり、それまでしていたサッカーを辞めて新しい競技を始めようと思いアメリカンフットボールを始めました。それまで、楽しくやるだけだった部活動において、日本一を目指して取り組むことは新鮮で刺激的なものでした。高校時代は、日本一にもなれず、試合にもあまり出場することが出来ず終わりました。大学で特にやりたいこともなかった中で、もう1度向き合ってやっ

てみようと思い、続けています。理不尽なことや、本心に嫌になることもありますが、少しずつではあります。心技体の成長を感じることができました。2つ目は、家族です。私の家は、3人兄弟と父と母の5人家族ですが、兄弟とは10歳くらい離れていて、ほとんど一人っ子のような環境でした。父は単身赴任で普段は母と2人で過ごしていました。週末に3人そろって過ごすことができて、小さいころは週末が楽しみでした。小さい頃は、当たり前だと思っていたことが、大きくなってから当たり前ではなかったことに気づきました。今、私がやりたいことを続けられているのも家族が見守って、応援してくれているからです。母は優しく、話しやすい、ご飯がとっても美味しかったです。父は、物静かですが、話すことも面白く、父の作るご飯も個人的でとても好きです。2人とも、語り切れないほど、私にとって大切で偉大で尊敬しています。2人のような大人になれるように、これから頑張っていきます。この場をお借りして伝えようと思います。ありがとうございます。

最後になりましたが、本日は町長をはじめ、ご来席いただきました多くの皆様へ感謝申し上げます。また、これまで私たちの成長を見守って下さった地域の方々、携わっていただいた先生方にも感謝申し上げます。ありがとうございました。



二十歳のじよば

今井 碧子さん



本日は、20歳を迎えた私たちの門出に際してこのような盛大な式典を催していただきありがとうございます。無事にこの日を迎えることができたのは、今まで支えてくださった家族や先生、地域の方々のおかげです。感謝申し上げます。

私たちが生まれてきて早くも20年が経ちました。時の流れとは早いもので、まだまだ先だと思っただけなのに、今更に驚かされるばかりです。私は、家族や地域の方々に見守られながら自然豊かな豊能町で生まれ育ちました。素晴らしい先生方と関わる中で教職に就きたいと考えるようになり、そして現在大学で小学校教員になるために勉学に励んでいます。その中で、出身校である東能勢小学校でインターシッピや学校ボランティアをさせていただきました。インターシッピ生やボランティアとして子ども達と関わる中で、子どもたちの明るさや何事にも一生懸命取り組むことの重要性、自由な発想力について実感することができました。この経験は将来教員になった時に必ず活かしていきたいと思えます。また、このような素晴らしい機会をいただけたこと、本当に感謝しております。

最後になりましたが、まだまだ未熟ではありますが、今後ともご指導後鞭撻のほどよろしくお願います。そして、多くの方々への感謝の気持ちを忘れず、はたちとしての決意を忘れず、力強く、優しく、たくましく生きていくことを誓ってはたち代表の言葉とさせていただきます。本日は誠にありがとうございます。

「謝辞」

井畑 智貴さん



本日は、20歳を迎えた私たちのために、このような式典を催していただきありがとうございます。式典のために尽力してくださった関係者および参列いただいた方々に、代表して感謝を申し上げます。

さて、はたちの皆さんは私の顔に見覚えのない方も多いと思います。というのも、私はここ豊能町に生まれ育ち光風台小学校を卒業したのちに、神戸の中高一貫校に通っていたからです。片道2時間におよぶ通学でヘトヘトの私をこの豊能町の緑豊かな自然が癒してくれたのは良い思い出です。

皆さんはこの自然が猛威を振るった災害を覚えていますか？ 私たちが中学3年生の夏に起きた平成30年7月豪雨、一般に西日本豪雨と呼ばれる豪雨災害です。断続的に降る雨音、高まる土砂災害の危険を知らせるアラーム、身に迫る恐怖を私たちに与えたこの災害は豊能町においても、道路の崩落などの被害を与えました。日本全国で、この災害により尊い命が多く失われてしまいました。

日々、私たちを癒してくれる自然ですが、恐ろし

い一面を持つことをこの時に私は知りました。気象災害の頻発激甚化も叫ばれる時代ですが、これ以上自然災害によって涙を流す人を減らしたいと思った私は現在、気象庁職員の身分をいただき幹部候補生として日々、気象・地震・火山、そして防災について教育・訓練を受けています。

自然豊かな豊能町ですが、自然が多い分、土砂災害などのリスクを抱えています。災害による被害を軽減し、私たちを豊かに育んだこの自然を守る存在になりたい、それが今の私の夢です。

このような夢を持ち、その夢へと歩むことができているのは、ひとえにこの豊能町で生まれ育つことができたからです。20年間、私たちの居場所を守ってくださったこの町の皆さんに感謝を申し上げます。最後になりますが、町長をはじめ、本式典に臨席賜った来賓の方々、関係者の皆様に心よりお礼を申し上げます。

これを持ちまして、はたち代表の謝辞とさせていただきます。ありがとうございました。



特集 案内一般 健康・福祉 安全・生活 教育・子育て 情報あれこれ